



夏休みを迎えるに当たって

校長 山崎 泰央

今日で一学期も無事終了し、明日から夏休みを迎えます。保護者・地域の皆様には、PTA活動や読み聞かせ等のボランティア、登下校の安全見守り隊等大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。さて、長い夏休みを迎えるに当たって保護者の皆様に2つお願いがあります。

一つ目は、通信票「あゆみ」を今後の励みにしてほしいということです。通信票の目的は、学習や生活面での努力や成長（歩み）の様子をお伝えし今後の目標を持たせることにあります。子どもたちは◎○△の数や1・2・3の評定に一喜一憂していることと思いますが、担任からの所見を読んで二学期に向けての励みとしていただければと思います。

私が子どもだった頃は、「行動・性格」の項目に「情緒の安定」というのがあり、何と私は、それが「A・B・C」の「C」だったことを覚えています。思春期で感情の起伏が大きかったのかもしれませんが、両親はその評価に一切触れることはありませんでした。今思えば私を気遣っていたのだと思います。でも、そのおかげで、それを気にすることもなく（覚えてはいますが）今日までできました。子どもさんの通信票が気になるとは思いますが、気持ちを前に向けられるような声かけをしてみてください。5段階評定の「4」を初めてもらった子どもさんが褒めてもらおうと急いで帰ってきたら、数個あった「3」のことを言われてしょげてしまったという話もあります。その反対に、成績が下がったと思っておそろおそろ通信票を出したら、「お父さんの小学校の時より立派じゃないか」と言われて、その後頑張るようになったという話もあります。子どもさんをやる気にさせるかそうでないかは、言葉ひとつで変わるのではないのでしょうか。

二つ目は、夏休みを家族の思い出の時間にしてほしいということです。兵庫県の小・中学校で校長先生をされた東井義雄先生の詩の中に「百千の灯(ひ)あらんも我を待つ灯(ひ)はひとつ」という一節があります。夕方になるとあちらの家こちらの家と明かりが灯ります。しかし、子どもたちがほっとして心安らぐのは、自分の家の明かりです。子どもが待っているのは、他ならぬ自分の家庭の温かさです。夏休みに向けていろいろと行事を計画されているご家庭もあるかと思います。何でもいいので、一緒に何かをすることを計画の中に加えていただきたいと思います。私は、「一緒」がキーワードだと思っています。皆さんは、子どもの頃に家族と一緒にしたことってどんなことが思い出に残っていますか。私は、海水浴に行ったことや高校野球を聞きながら祖父とお盆の花立ての準備をしたことがなつかしく思い出されます。お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんの子どもころの話（失敗談も結構楽しくほっとするものです。）を聞いたり、一緒に本を読んだりも如何でしょう。きっと、家族の温かさが感じられると思います。また、家族のためになる手伝いをさせて、「ありがとうシャワー」を浴びせるのもいいと思います。家での役立ち感を味わい、自分の居場所を実感することができます。子どもたちが待っている灯（我を待つ灯）はひとつです。家庭なのです。家族の思い出あふれる夏休みになればと思っています。

皆様、子どもたちが安全で有意義な夏休みが送れるよう、どうぞ見守ってください。夏休み明けには、また元気な子どもたちに会えるのを楽しみにしています。